

福岡女大家政 ○山本昭子 久留米信愛女短大 今松禮子 中村学園大
政 大田真喜代

目的 我国における靴の歴史は西欧に比べ非常に浅いため、現代においても靴に対する不満が多い。履物の問題点と足部形態を把握するため、履物設計の観点から足部の計測と履物に関する調査を行ない分析を試みた。

方法 18~23歳の健康な女性204名について、足部計測と履物に関する調査を行ない、各々の結果を統計学的にまとめ考察した。計測方法は接地足蹠撮影装置による間接計測法とマルチン計測器による直接計測法を併用した。計測項目は足囲、甲足囲、足甲高、足長、足幅、内不踏長、外不踏長、関節角度、身長、体重の10項目である。

結果 ①運動歴の有無により、計測項目の一部に有意差がみられた。②計測項目間の相関関係は体重と各周径項目(足囲、甲足囲)間及び身長と各長径項目(足長、内不踏長、外不踏長)間に深い相関がみられた。③足蹠形状の母指角による分類では、母指角6~15°の範囲の者が約70%と最も多く、靴による指の変形が進んでいることがわかった。④自称靴サイズと実測値による足長との差は、足長が短いほど増大し、足長が長いほど減少する傾向がみられた。また、足長23.75cm以下の場合には、足囲が大きくなるに従い「自称靴サイズ-足長」は増加する傾向にある。⑤アンケートの結果、靴への不満を持つ者は86%、足傷のできる者は74%、また、不満の内容は幅のあわない者42.2%、つま先のあわない者39.7%、踵のあわない者22.1%等が主なものであった。